

科目名：マクロ経済分析

教員名：小黒一正

単位数：4単位

時 限：夏学期・木曜日・2、3限

場 所：神田キャンパス

科目区分：国際・公共政策大学院

授業概要

この講義では、現代的なマクロ経済学の基礎的な内容を紹介する。マクロ経済学には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。折に触れて現実の政策議論とこれら議論との関係を紹介し、日本経済の状態についても理解を深めていく。

学部・学年の視点

授業の目的・到達目標と方法

- ① 古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。
- ② ケインジアンの理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。
- ③ 財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

授業の内容・計画

計 15 日間にわたり各 2 コマを講義する。各日のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

- ① 経済学入門（ミクロ経済学とマクロ経済学・ケインジアンと古典派の理論）
- ② マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
- ③ 古典派モデル(1) 基本モデル
- ④ 古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
- ⑤ 古典派モデル(3) 貨幣数量説，失業と労働市場
- ⑥ ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
- ⑦ ケインズ・モデル(2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
- ⑧ ケインズ・モデル(3) 開放経済モデル + 復習
- ⑨ 中間試験
- ⑩ フィリップス曲線と AD・AS モデル
- ⑪ 消費関数・投資関数の理論

- ⑫ 財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
- ⑬ 経済成長論
- ⑭ 復習
- ⑮ 期末試験

テキスト・参考文献

以下の書籍を基本テキストとする。

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

なお、以下の書籍も有益である。

マンキュー 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』東洋経済新報社（入門用）

マンキュー『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社（中級）

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ

スティグリッツ『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社

質問等の連絡先・オフィスアワー

特に時間は定めない。質問がある場合には、まず講義時間や前後の時間を活用してほしい。

また、メールによる問い合わせも歓迎する。

他の授業科目との関連・教育過程の中での位置付け

現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となる。この講義では必要に応じて補足するが、「ミクロ経済分析」における確認が重要となる。マクロ経済学は実証的な学問であることから、「経済統計分析」や「計量経済分析」の知識を用いたデータ分析は、マクロ経済の理解に有益である。

成績評価の方法

成績評価は中間試験および期末試験による。

成績評価基準の内容

各試験のウェイトは未定であるが、概ね中間試験が50%、期末試験が50%程度を予定している。

受講生に対するメッセージ

少子高齢化が進展する中で、政策を経済学の視点で考察し、解決策を模索する必要は高まっていることから、積極的に講義中の議論に参加してほしい。なお、最初に受講生の知識・理解度を確認し、レベルにあわせて授業を進めていく予定である。数学や経済学の知識については必要に応じて解説する。授業時間の制約もあり、すべての内容を丁寧に説明する

時間が取れない可能性もあるため、事前の予習が極めて重要である。